〔看護学〕
〔資料〕

看護学部のディプロマ・ポリシー到達度に関する調査（令和 5 年度報告）

立川美香[*1]・藤村雅子[*1]・茨木希[*1]・井上奈津美[*1]・福岡泰子[*1]・安成智子[*1]・新開奏恵[*1]・角光通子[*2]
佐藤美幸[*1]
([*1]宇部フロンティア大学看護学部看護学科・[*2]宇部フロンティア大学就職課)

Survey on the diploma policy achievement of the Department of Nursing (2023nendo Report)

Mika Tachikawa[*1], Masako Fujimura[*1], Nozomi Ibaraki[*1], Natsumi Inoue[*1], Yasuko Fukuoka [*1], Tomoko Yasunari [*1] , Kanae Shinkai[*1], Michiko Kadomitsu[*2] and Miyuki Sato[*1]
([*1] Department of Nursing, Ube Frontier University, [*2] Employment department of Ube Frontier University)

看護学部では， ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）の達成度を把握するために令和 4 年度（2022）より看護学部全学生のディプロマ・ポリシーの到達度に関する調査を実施している．令和 5 年度（2023）の結果では学年間で，5 つのディプロマ・ポリシーには大きな違いはなかった．しかしどの項目も卒業時の到達目標に十分に至っていないため，今後も力を身につける教育を行わなければならないことがわかった．

令和 4 年度（2022）入学生の 1 年次と 2 年次のディプロマ・ポリシーの変化を比較した結果，学年が 1 学年あがっても全体の点数の大きな上昇はみられなかった．34 の小項目をみると，特に〔幅広い教養に基づく柔軟な思考力〕については得点率が低く，本年度の全学年の調査結果と同じ課題であることが分かった．〔看護の視点から広く社会貢献する態度〕については，僅かに上昇しているが，今後授業以外の活動として社会貢献活動に取り組みやすい環境を整える必要があると考える．

キーワード：ディプロマ・ポリシー，看護大学生
Keyword: Diploma policy, Nursing university student

1. はじめに

看護学部では，ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標）の達成度を把握するために令和 4 年度（2022）より看護学部学生のディプロマ・ポリシーの到達度に関する調査を実施し，令和 5 年度（2023）から宇部フロンティア大学紀要にて調査結果を報告している [1-2]．今回は，第 2 回目となる令和 5 年度（2023）の調査結果を報告する．

看護学部では，1 年次前期に基礎ゼミナールⅠ（初年次教育），後期に基礎ゼミナールⅡ（キャリアデザイン）として，入学当初に初年次教育，キャリアデザインに関する授業を配置している．これは，看護職を目指す学生の専門職教育の入り口を整え，2 年次以降のより専門的な教育へとつなげていく役割を果たしている．

看護教育において本学のディプロマ・ポリシーに掲げる「高い倫理観」「柔軟な思考力」「学び続ける姿勢」「高度な実践力」「社会貢献する態度」の 5 つの柱とな

るポリシーは非常に重要である.

ディプロマ・ポリシーに沿った4年間のカリキュラムの中で，学生がどのような学びをし，どのように身についているのかを明らかにすることで，看護学部の教育評価の一つとしたいと考える.

なお，この報告書は，5年間の調査の3年目の報告であり，今後も報告を行いたい.

＜看護学部のディプロマ・ポリシー＞

DP1. 人に寄り添う高い倫理観
生命の尊厳や基本的人権を擁護できる高い倫理観を持つことができる.

DP2. 幅広い教養に基づく柔軟な思考力
幅広い教養を育むために，学問を探求し批判的思考力を持つことができる.

DP3. 看護学を生涯学び続ける姿勢
看護の現象・事象に対応できる高度な専門的知識・技術を高める姿勢を持つことができる.

DP4. 看護専門職としての高度な実践力
専門職として的確な判断を行い，質の高い看護を提供する能力を持つことができる.

DP5. 看護の視点から広く社会貢献する態度
グローバルな社会における看護の役割を広い視野で捉え，社会に貢献する態度を持つことができる.

2. 調査方法

1）対象

令和5年度に在籍する1～4年生，234名を対象とした.

2）調査期間

調査は，令和5年10月～令和6年1月におこなった.

1年生は，令和6年1月17日，2年生は同1月18日，3年生は同1月18日，4年生は国家試験等を勘案し，令和6年10月30日に行った.

3）方法

学年ごとに質問紙を配布し調査を行った．質問紙は自記式で無記名とした．質問紙はその場で回収した.

4）調査内容

看護学部のディプロマ・ポリシー（DP）を元に教員間で検討し，卒業時の到達目標としてDPの5つの柱をもとに34の小項目で測定した.

DP1の「人に寄り添う高い倫理観」として，①基本的人権は国民に平等な権利である②人種や性別などの差別は仕方がない③障害者は特別に扱われなければならない④看護は全ての人々に平等に行わなければならない⑤患者の自己決定を尊重しなければならない⑥個人が特定されなければ患者のことを他者に話してもよい，の6項目とした.

DP2の「幅広い教養に基づく柔軟な思考力」として，⑦幅広い分野の教養を身につけている⑧複雑な問題について順序立てて考えることが得意だ⑨誰もが納得できるような説明をすることができる⑩私の欠点は気が散りやすいことだ⑪物事を考えるとき他の案について考える余裕がない⑫課題がでなくても自ら進んで学習（予習・復習）をする⑬疑問を持ったことについては進んで調べている⑭苦手な科目や技術について克服する努力をしている，の8項目とした.

DP3の「看護学を生涯学び続ける姿勢」として，⑮生涯にわたり学び続けたいと思う⑯新しいものにチャレンジすることが好きである⑰役に立つかわからないことでも，できる限り多くのことを学びたい⑱わからないことがあったら，先生や他の学生に積極的に聞く⑲先を考えて計画を立てることができる⑳いつも偏りのない判断をしようとする，の6項目とした.

DP4の「看護専門職としての高度な実践力」として，㉑一つ二つの立場だけでなく，できるだけ多くの立場から考えようとする㉒たとえ意見が合わない人の話にも耳をかたむける㉓患者のニーズを第一に心がけてケアを行っている㉔患者の優先順位を考えてケアを行っている㉕患者の情報を先入観なく把握している㉖状況をふまえて，指導者に報告・連絡・相談をしている㉗他者のアドバイスを熟慮して実践に活かす㉘自己の能力を高めるために自分に合った勉強方法を用いている，の8項目とした.

DP5の「看護の視点から広く社会貢献する態度」として，㉙世の中で起きていることについて興味を持っている㉚ボランティア活動に参加している㉛困っている人がいたら，手を差し伸べる㉜社会のルールは常に守っている㉝集団の中で自分の役割を果たしている㉞私は地域に貢献しているとしている，の6項目で行った.

各項目の配点は，「そう思わない/行っていない」（1点）・「あまりそう思わない/あまり行っていない」（2点）「ややそう思う/時々行っている」（3点）・「そう思う/いつも行っている」を（4点）とした.

5）データ分析

本調査は，質問項目ごとに記述統計量を算出し，横断的に令和5年度の全学年の比較，縦断的に令和4年度入学生の1年次と2年次の比較を行った.

6）倫理的配慮

対象者には，調査の研究の目的・方法・期待される結果と学会等での公表予定，調査研究対象者にとっての協力に関する利益と不利益を伝え，自由意思による研究参加の保証ならびに辞退の自由，匿名性の保持を保障した．これらを文書で説明し同意を得た.

なお，実施には，宇部フロンティア大学研究倫理審査委員会（管理番号21007）の許可を得た.

3. 結果および考察

当日の調査参加者は，234名中227名（7名欠席）であった．内訳は，1年生50名で回収49名（回収率98.0%），2年生67名（5名欠席）で回収61名（回収率91.4%），3年生56名（1名欠席）で回収55名（回収率98.2%），4年生54 名（1名欠席）で回収52名（回収率96.3%）であった．回収数は227名で有効回答数は217名（回収率95.6%）であった.

1）将来目指す資格

将来目指す資格として，看護師は1年生55.1%，2年生47.5%，3年生75.5%，4年生76.5%であった．学年が進むにつれ看護師の資格を目指す学生の割合が多くなることが分かった（表1）.

2）卒業後の進路

卒業後の進路として，病院勤務を希望する学生は，1年生57.1%，2年生60.7%，3年生85.2%，4年生82.3%であった．学年が進むにつれ病院勤務を目指す学生の割合が多くなることが分かった．卒業後の進路を複数検討している学生は，1 年生 26.5%，2 年生26.2%，3年生11.1%，4年生5.9%であり，学年が低いほど卒業後の進路として複数検討している学生が多いことが分かった．その他の進路先を目指す学生は，1年生4.1%，2 年生3.3%，3 年生は0%，4 年生は0%であった（表2）.

表1 将来目指す資格

人（%）

令和5年度	看護師	保健師	養護教諭	助産師	複数の看護職	その他	合計
1学年	27(55.1)	1(4.5)	0(0)	0(0)	21(42.9)	0(0)	49
2学年	29(47.5)	0(0)	0(0)	2(3.3)	29(47.5)	1(1.6)	61
3学年	40(75.5)	0(0)	0(0)	0(0)	13(24.5)	0(0)	53
4学年	39(76.5)	0(0)	0(0)	0(0)	12(23.5)	0(0)	51
合計	135(63.1)	1(0.5)	0(0)	2(2.9)	75(35.0)	1(0.5)	214

表2 卒業後の進路

人（%）

令和5年度	病院勤務	学校勤務	行政（県,市町村）	産業保健師	進学	複数の進路	その他	合計
1学年	28(57.1)	1(2.0)	2(4.1)	2(4.1)	1(2.0)	13(26.5)	2(4.1)	49
2学年	37(60.7)	2(3.3)	2(3.3)	0 (0)	2(3.3)	16(26.2)	2(3.3)	61
3学年	46(85.2)	0 (0)	2(3.7)	0 (0)	0 (0)	6(11.1)	0 (0)	54
4学年	42(82.3)	2(3.9)	4(7.8)	0 (0)	0 (0)	3(5.9)	0 (0)	51
合計	153(71.1)	5(2.3)	10(4.7)	2(0.9)	3(1.4)	38 (17.7)	4(1.9)	215

3）ディプロマ・ポリシーの到達度

看護学部のディプロマ・ポリシーの到達度について5つの柱の平均値でみると，「人に寄り添う高い倫理観」の6項目（合計24点）では，学年全体の平均が16.7点で2年生と4年生が16.5点と最も低く，1年生が最も高い17.3点だった.「幅広い教養に基づく柔軟な思考力」の8項目（合計32点）では，学年全体の平均が21.0点で各学年とも20〜21点台だった.「看護学を生涯学び続ける姿勢」の6項目（合計24点）では，学年全体平均が17.3点で，各学年とも17点台だった.「看護専門職としての高度な実践力」の8項目（合計32点）では，学年全体平均が27.5点で学年が上がるにつれて高くなり，4年生が28.0点と最も高かった.「看護の視点から広く社会貢献する態度」の6項目（合計24点）では，学年全体の平均が18.3点で，最も低いのは4年生の17.6点で学年が上がるに従って下がっていた.

ディプロマ・ポリシーの5つの柱を学年ごとにみると，大きな違いはなかったが，どの項目も到達までに力を養わなければならないことがわかった（図1）. 特に1年生から4年生で0.8点と低下が大きかった「人に寄り添う高い倫理観」においては，看護を専門的に学んでいく中で医療職者に求められる倫理の厳しさを知り，低下の傾向にあるものと考えられる. しかし,2年生から4年生と得点が横ばいであることは，学生自身が講義や実習で学んで得た医療職者に求められる倫理観に悩みながらも体得しているとも考えられる. 倫理観においては1年生が最も高く関心があり，2年生になると看護に迷いが生じて低くなる傾向は先行研究と同様の結果であった[3].

また1年生から4年生で0.7点低下した「看護の視点から広く社会貢献する態度」では，1・2年生の得点と3・4年生の得点が同程度であることから，3年生になると実習や就職活動などで社会貢献に参加する機会が少なくなることが影響していると考えられる. 社会貢献に対する意欲や態度は，本学学生も先行研究と同様に低学年の方が高い傾向にあった[4-5].

一方で，1年生から4年生で0.9点上昇した「看護専門職としての高度な実践力」は，3年生から始まる実習での実践で培われていることが推測できる. コロナ禍で実習が十分でない期間も続いたが，それが開けた今，学生の実践力の形成には実習が大きくかかわることを改めて裏付ける結果になったと考える.

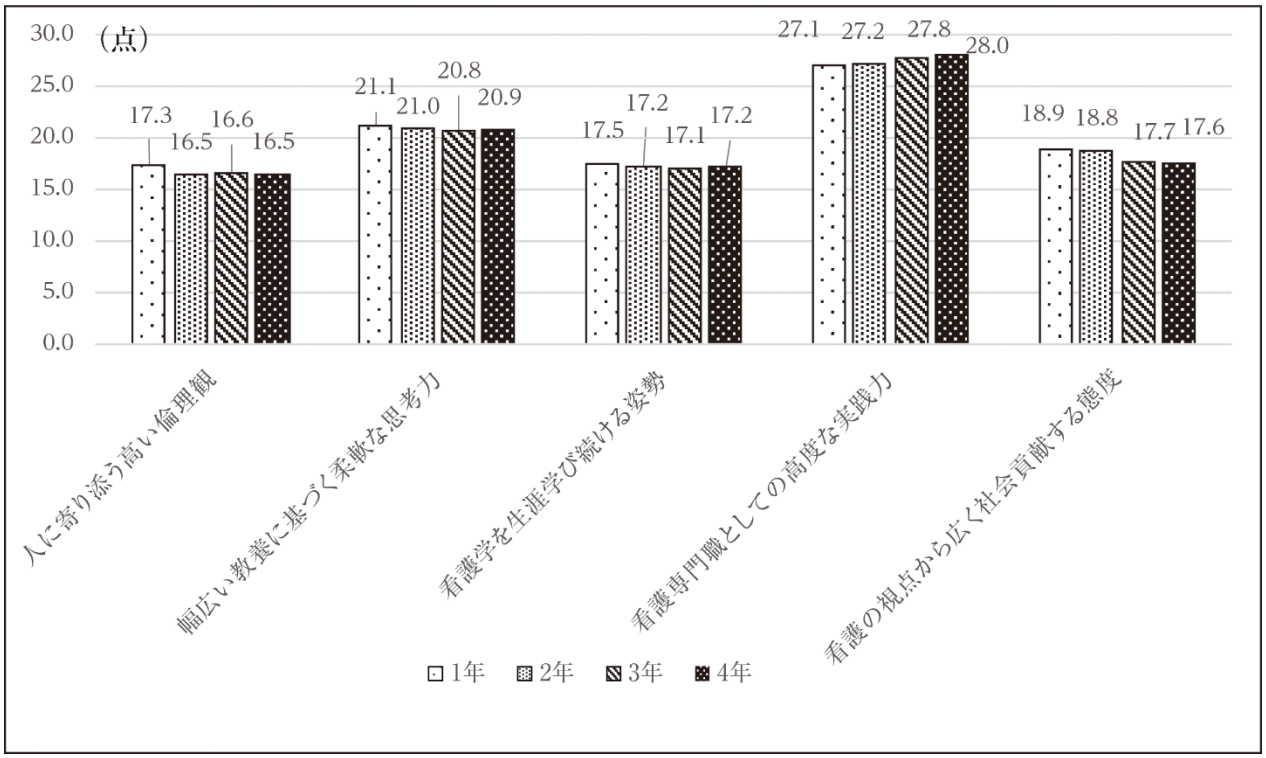

図1 ディプロマ・ポリシーの5つの柱の学年比較

ディプロマ・ポリシーを34の小項目でみると，DP1「人に寄り添う高い倫理観」の6項目で，〔看護は全ての人々に平等に行わなければならない〕と〔患者の自己決定を尊重しなければならない〕が比較的高く 4 点に近い点数であった．〔個人が特定されなければ患者のことを他者に話してもよい〕では 1 点台であった．これらのことから，各学年とも「人に寄り添う高い倫理観」は備わっているということがわかった．

DP2の「幅広い教養に基づく柔軟な思考力」の8項目では，他の 4 つのディプロマ・ポリシーより全体的に低いことがわかった．8項目の全てが2点台であり，思考力を身につける指導の必要があることがわかった．

DP3の「看護学を生涯学び続ける姿勢」の6項目のうち，〔先を考えて計画を立てることができる〕が最も低く各学年とも 2 点台であった．学ぼうとする姿勢はある程度あるものの，計画だった学習行動がとれていないことがわかった．

DP4の「看護専門職としての高度な実践力」の8項目は，各学年とも比較的高い点数を呈したが，全ての臨床実習体験を積んでいない中での自己評価であるため，実際の演習や実習での実践力と併せて評価する必要がある．

DP5の「看護の視点から広く社会貢献する態度」の6項目のうち〔ボランティア活動に参加している〕と〔私は地域に貢献している〕が 2 点台と他の項目と比較して特に低い点数だった．また学年が上がるに従って下がっていた．〔困っている人がいたら，手を差し伸べる〕や〔社会のルールは常に守っている〕は 3 点台という点数を示していた．これらのことから低学年のうちに，身近な人だけでなく，社会との繋がりを広く持ち，行動することが課題であることがわかった（表3）．

表3 ディプロマ・ポリシー小項目の学年比較

DP5つの柱	小項目	全学年	1学年	2学年	3学年	4学年
人に寄り添う高い倫理観	基本的人権は国民に平等な権利である	3.62	3.59	3.56	3.64	3.69
	人種や性別などの差別は仕方がない	1.64	2.12	1.52	1.56	1.39
	障害者は特別に扱われなければならない	2.50	2.61	2.52	2.40	2.49
	看護は全ての人々に平等に行わなければならない	3.84	3.69	3.87	3.93	3.84
	患者の自己決定を尊重しなければならない	3.86	3.71	3.90	3.91	3.88
	個人が特定されなければ患者のことを他者に話してもよい	1.29	1.57	1.20	1.19	1.24
幅広い教養に基づく柔軟な思考力	幅広い分野の教養を身につけている	2.95	2.71	3.02	3.07	2.96
	複雑な問題について順序立てて考えることが得意だ	2.48	2.41	2.49	2.47	2.55
	誰もが納得できるような説明をすることができる	2.29	2.35	2.23	2.40	2.18
	私の欠点は気が散りやすいことだ	2.67	2.63	2.75	2.55	2.74
	物事を考えるとき他の案について考える余裕がない	2.47	2.65	2.54	2.44	2.25
	課題がでなくても自ら進んで学習（予習・復習）をする	2.38	2.53	2.28	2.20	2.53
	疑問を持ったことについては進んで調べている	2.94	3.06	2.85	2.95	2.90
	苦手な科目や技術について克服する努力をしている	2.82	2.82	2.85	2.82	2.80
看護学を生涯学び続ける姿勢	生涯にわたり学び続けたいと思う	2.87	3.10	2.67	2.95	2.82
	新しいものにチャレンジすることが好きである	2.92	2.92	2.93	2.91	2.90
	役に立つか判らないことでも、できる限り多くのことを学びたい	2.91	2.90	2.85	2.95	2.96
	わからないことがあったら、先生や他の学生に積極的に聞く	2.87	2.85	3.07	2.76	2.76
	先を考えて計画を立てることができる	2.73	2.73	2.69	2.67	2.84
	いつも偏りのない判断をしようとする	2.98	3.08	2.98	2.91	2.94
看護専門職としての高度な実践力	一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	3.21	3.27	3.25	3.16	3.18
	たとえ意見が合わない人の話にも耳を傾ける	3.55	3.49	3.56	3.56	3.59
	患者のニーズを第一に心がけてケアを行っている	3.57	3.51	3.52	3.64	3.63
	患者の優先順位を考えてケアを行っている	3.57	3.51	3.43	3.69	3.67
	患者の情報を先入観なく把握している	3.38	3.27	3.33	3.36	3.57
	状況をふまえて、指導者に報告・連絡・相談をしている	3.52	3.29	3.46	3.73	3.59
	他者のアドバイスを熟慮して実践に活かす	3.56	3.45	3.59	3.56	3.61
	自己の能力を高めるために自分に合った勉強方法を用いている	3.15	3.33	3.10	3.07	3.14
看護の視点から広く社会貢献する態度	世の中で起きていることについて興味を持っている	3.13	3.27	3.05	3.00	3.22
	ボランティア活動に参加している	2.36	2.59	2.49	2.24	2.10
	困っている人がいたら、手を差し伸べる	3.51	3.59	3.59	3.51	3.33
	社会のルールは常に守っている	3.46	3.45	3.54	3.45	3.39
	集団の中で自分の役割を果たしている	3.22	3.33	3.34	3.09	3.10
	私は地域に貢献している	2.60	2.71	2.75	2.44	2.47

4）令和 4 年度入学生の 1 年次・2 年次のディプロマ・ポリシーの比較

本調査は令和 4 年に開始しているため，今回は令和 4 年度入学生の 1 年次と 2 年次の DP の変化を比較した.

DP の 5 つの柱では，学年が 1 学年あがっても全体の点数の大きな上昇はみられなかった. 34 の小項目をみると，特に〔幅広い教養に基づく柔軟な思考力〕については 32 点満点中 21 点と得点率としても 66%と低く，本年度の全学年の調査結果と同じ課題であることが分かった.〔看護の視点から広く社会貢献する態度〕については，僅かに上昇しているものの得点率としても 78%であった. 令和 5 年度の全学年の横断調査の結果を鑑みても，3 年次以降は低下していく可能性が高い. 今後 1･2 年次を中心に授業以外の活動として社会貢献活動に取り組みやすい環境を整える必要があると考える（図 2）（表 4）.

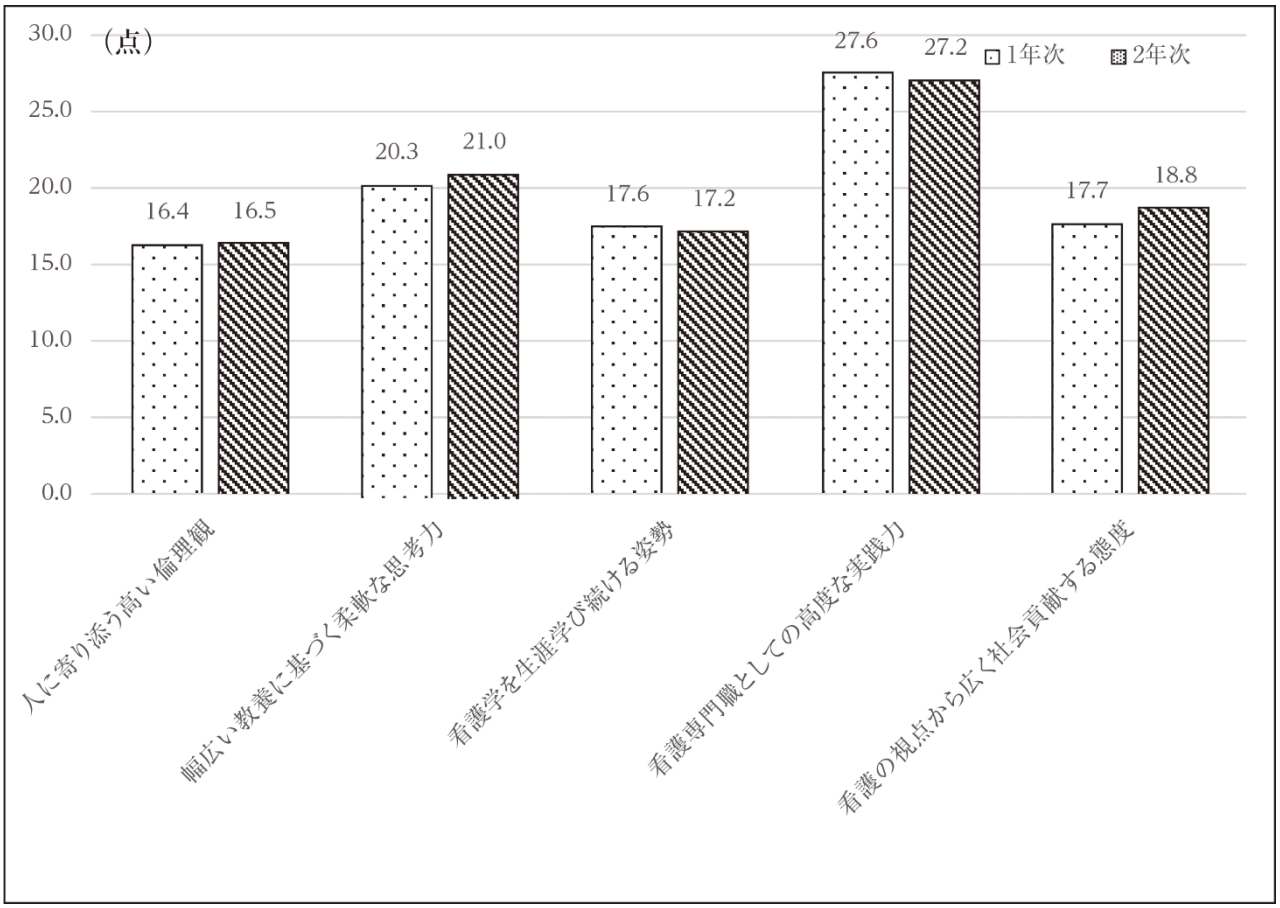

図 2 令和 4 年度入学生の 1 年次・2 年次のディプロマ・ポリシー5 つの柱の変化

表４ 令和４年度入学生の１年次・２年次のディプロマ・ポリシー小項目の変化

DP5つの柱	小項目	1年次	2年次
人に寄り添う高い倫理観	基本的人権は国民に平等な権利である	3.59	3.56
	人種や性別などの差別は仕方がない	1.58	1.52
	障害者は特別に扱われなければならない	2.44	2.52
	看護は全ての人々に平等に行わなければならない	3.93	3.87
	患者の自己決定を尊重しなければならない	3.81	3.90
	個人が特定されなければ患者のことを他者に話してもよい	1.14	1.20
幅広い教養に基づく柔軟な思考力	幅広い分野の教養を身につけている	2.64	3.02
	複雑な問題について順序立てて考えることが得意だ	2.08	2.49
	誰もが納得できるような説明をすることができる	2.00	2.23
	私の欠点は気が散りやすいことだ	2.80	2.75
	物事を考えるとき他の案について考える余裕がない	2.44	2.54
	課題がでなくても自ら進んで学習（予習・復習）をする	2.36	2.28
	疑問を持ったことについては進んで調べている	3.03	2.85
	苦手な科目や技術について克服する努力をしている	2.92	2.85
看護学を生涯学び続ける姿勢	生涯にわたり学び続けたいと思う	2.88	2.67
	新しいものにチャレンジすることが好きである	3.10	2.93
	役に立つか判らないことでも、できる限り多くのことを学びたい	3.00	2.85
	わからないことがあったら、先生や他の学生に積極的に聞く	3.14	3.07
	先を考えて計画を立てることができる	2.53	2.69
	いつも偏りのない判断をしようとする	2.95	2.98
看護専門職としての高度な実践力	一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	3.32	3.25
	たとえ意見が合わない人の話にも耳を傾ける	3.73	3.56
	患者のニーズを第一に心がけてケアを行っている	3.69	3.52
	患者の優先順位を考えてケアを行っている	3.59	3.43
	患者の情報を先入観なく把握している	3.24	3.33
	状況をふまえて、指導者に報告・連絡・相談をしている	3.39	3.46
	他者のアドバイスを熟慮して実践に活かす	3.71	3.59
	自己の能力を高めるために自分に合った勉強方法を用いている	3.02	3.10
看護の視点から広く社会貢献する態度	世の中で起きていることについて興味を持っている	3.00	3.05
	ボランティア活動に参加している	2.26	2.49
	困っている人がいたら、手を差し伸べる	3.67	3.59
	社会のルールは常に守っている	3.66	3.54
	集団の中で自分の役割を果たしている	3.07	3.34
	私は地域に貢献している	2.43	2.75

4. おわりに

本調査は，看護学部学生を対象にディプロマ・ポリシーの評価として毎年行っているものである．縦断的な調査としては，最終的に5年間の調査を行い，まとめていく予定としているが，今回はその2回目の報告を行った．今後，4年間でDPをどのような経過をたどり到達していくのかを追跡していきたい．

5. 参考文献

1）立川美香，佐藤美幸，安成智子，新開奏恵，角光通子：看護学部学生の社会人基礎力の獲得に関する研究 令和4年度（2022）入学生第1回目調査結果報告，宇部フロンティア大学紀要 年報3巻，pp25-36，2023.
2）藤村雅子，立川美香，福岡泰子，安成智子，新開奏恵，角光通子，佐藤美幸：看護学部学生の社会人基礎力の獲得に関する研究 令和5年度（2023）入学生第1回目調査結果報告，宇部フロンティア大学紀要 年報4巻，pp11-22，2024.
3）泉澤真紀，看護学生の看護倫理の関心とその内容の実態調査，旭川大学保健福祉学部研究紀要，FacultyofHealthandWelfareScience，Vol.10，pp13-19，2018.
4）齋藤和樹，小林寛幸，丸山真理子，花屋道子，柴田健，田多香代子：看護学生の学科志望動機，人生の意味・目的意識，性格特性の関連について PILとTEGの分析を通して，日本赤十字秋田短期大学紀要（4），pp3-8，2000.
5）小沢久美子，久保宣子，切明美保子，日當ひとみ，古舘美喜子，蛭田由美：看護学生の社会的スキルと職業的アイデンティティの形成に関する研究－専門領域別実習前後および学年別の比較－，八戸学院大学紀要，pp55-56，2020.